

〔資料〕

米国大学看護学部における地域貢献のありようについて

梅 津 美 香¹⁾ 宮 本 千津子²⁾ 田 中 千 代³⁾ グレグ 美 鈴⁴⁾

Ways of Contributing Community's Health by Schools of Nursing in the United States

Mika Umezu¹⁾, Chizuko Miyamoto²⁾, Chiyo Tanaka³⁾, and Misuzu F. Gregg⁴⁾

はじめに

国際交流委員会では、その所掌事項として海外諸大学との学術提携および交流をうたっている。このため海外施設との共同研究の可能性や方法を探る活動を実施してきた。その際、本学の理念に沿って、大学として地域に貢献する研究・実践が行われていることを探索の方針として掲げた。初年度の平成12年度には、主に米国の施設についてホームページやネットワーク探索、文献検索を行い、情報を集積しているところである。

しかし本学の理念に一致する活動を行う施設という条件は、思いのほか難関であり、地域に貢献する形としては教員が個人研究として地域をフィールドとして実施しているものや、学生が地域看護学等の実習として行った活動がほとんどであった。また文献の中からは、大学が組織として地域に貢献しているのかどうかを判断することが困難であった。本論文では、その中でも今後の活動の参考とする目的で、各委員が得た地域に貢献する大学とその活動を整理したものである。

I. The University of Wisconsin-Milwaukee, School of Nursing

1. 大学の概要

The University of Wisconsin-Milwaukee は、University of Wisconsin System と呼ばれる13の大学と13の短期大学を統括した州立のシステムに属して

いる。ミシガン湖に近い Milwaukee は人口628,000人で、ウィスコンシン州最大の都市である。この大都市にある看護学部は、2000年に設立35周年を迎え、学士、修士、博士課程を有している。学士課程には、大学教育を受けていない人を対象とした伝統的な課程と、看護以外の領域で既に大学教育を受けている人を対象とした短期学士課程がある。さらに共同的看護プログラムは、University of Wisconsin System に存在する5つの看護学部を科学技術でつなぎ、遠隔教育により看護婦免許を持つ人に学士号を授与している。修士課程は、クリニカルナーススペシャリストとファミリー・ナースプラクティショナーの教育を行っている。博士課程には伝統的な教育課程の他、学士を持つ看護婦が博士号を取得するための課程がある。

1996年に看護学部は、Faye McBeath 財団の助成金を受けて Urban Health Partnership 研究所を設立した。この研究所の使命は、大学教職員と、その他の保健・福祉サービス提供者、サービスを受ける人、政策決定者との間で生産的でアウトカムに焦点を当てた共同的パートナーシップを作ることによって、都市地域の健康状態やQOLを向上させることである。この研究所は、以下に述べる地域看護センターを組織、調整している。

2. 地域看護センター

地域看護センター (Community Nursing Center, 以下 CNC と略す) は、看護婦管理センター、看護クリ

1) 岐阜県立看護大学 成熟期看護学講座 Nursing of Adults, Gifu College of Nursing

2) 岐阜県立看護大学 機能看護学講座 Management in Nursing, Gifu College of Nursing

3) 岐阜県立看護大学 育成期看護学講座 Nursing of Children and Child Rearing Families, Gifu College of Nursing

4) 岐阜県立看護大学 地域基礎看護学講座 Community-based Fundamental Nursing, Gifu College of Nursing

ニック、看護団体あるいは看護センターとも呼ばれ、クライアントに専門的看護サービスを提供する組織であり、1970年代から、多くの大学で地域サービス、学生の学習経験の提供と大学教員の実践・研究の場として設立されている。The University of Wisconsin-Milwaukee 看護学部は、House of Peace Community Center, Riverwest Pierce CNC, Shalom Center, および Silver Spring CNC の4つのCNCを持っている。最初のCNCは、1979年に設立され、それ以降教員の研究領域に関連したセンターにおいて、看護実践プログラムを開発、実施し、アウトカム評価が行われている。

Silver Spring CNC と Riverwest Pierce CNC の開発にリーダーシップを取った Sally Lundeen は、1985年に Lundeen CNC モデルを開発し、地域に根ざしたプライマリーヘルスサービスが強調されるようになった。Lundeen CNC モデルは、学際的チーム、公衆衛生、ソーシャルサービスの領域での長期の組織的パートナーシップおよび地域住民の継続的参加を要求する共同モデルである。House of Peace Community Center は1990年に、Shalom Center は1991年に設立された地域住民とホームレスの人々のためのセンターであり、Riverwest Pierce CNC は、1996年に Milwaukee の公立学校と MPS 小学校とのパートナーシップにより設立され、予防注射の改善などに取り組んでいる。本論文では、1987年に設立された Silver Spring CNC に焦点を当てて紹介する。

Silver Spring CNC の目的は次のとおりである。1) 必要性が高く、十分なケアを受けていない地域の住民を対象に、独立した看護サービスを提供する。2) 包括的プライマリーヘルスケア配給モデルを確立する。3) 看護職以外のヘルスケアやヒューマンサービス提供者との学際的共同を促進する。4) 臨床研究、ヘルスケア提供に関わる研究を計画する。5) 地域看護センターのスタッフ、専門職、その他の職員、クライアント、地域住民などが健康と福祉のために協働することを可能にする。6) 健康と健康に関するサービスの提供に関して、政策立案者を教育する。

このセンターは、アメリカ政府の公衆衛生サービス看護課の資金や複数の私的・公的資金を受け、ウィスコンシンで最も大きな政府助成住宅に住むあらゆる年齢層の

人々、およびその助成住宅を取り巻く地域にサービスを提供している。スタッフは、ナースプラクティショナー、保健婦、学士号を持つ看護婦、ソーシャルワーカー、コミュニティヘルスワーカーである。医療処置は、週に1日、非常勤の医師によって提供されている。

実施されている直接サービスは、ヘルスアセスメントやスクリーニング、第1次予防、生活スタイルの修正プログラム、健康教育、心理社会的サポート、急性で軽症な健康問題への対処、慢性疾患を持つ人の管理と支援、詳細なケースマネジメントなどである。これらの活動は、センターを訪れた人に対して、あるいはクライアントの家庭で行われ、近接する Silver Spring Neighborhood Center のあらゆる活動と統合して行われている。間接的サービスとしては、地域アセスメント、サービス提供モデルの開発、プログラム評価、健康サービスに関する研究、スタッフ開発、プライマリーケアの提供に関する地域内施設のコンサルテーション、臨床情報システムやクライアントの文化的背景に相応しいケア提供方法の開発などである。

さらに Silver Spring CNC は、看護、医学、ソーシャルワークなどの健康に関わる専門職とそれらの学生に対して学習機会を提供している。地域看護センターの第1の目的はサービスの提供であるが、センターのチームメンバーは全て大学教員、あるいは看護、医学、ソーシャルワークの臨床指導者である。これらのメンバーは、学際的チームのモデルであり、センターと教室の両方で教育を行っている。

II. Johns Hopkins University, School of Nursing

米国東部 Baltimore にある Johns Hopkins University 看護学部における地域看護活動を紹介したい。

1. Johns Hopkins University 看護学部

Johns Hopkins University は1876年に Johns Hopkins によって地域住民に貢献する医療を展開することを目的に Baltimore 中心部に設立された教育病院をその母体とする私立大学である。看護学部と同大学院は病院附属看護専門学校から1983年に昇格した。古い伝統をもつ一方で、イノベーションの促進を理念とし、年々新しいコースが新設されている。一例として1998年よりファミリー・ナースプラクティショナー養成コースが、1999

年よりケアマネージメントおよびキャリアマネージメントなどのヘルスケアシステムに関するスペシャリスト養成コースがそれぞれ修士課程に、また2000年からヘルスケア経済と情報学を中心としたコースが博士課程に開設された。全米における評価も高く、大学院プログラムは総合で全米第5位（1999年）に、コミュニティ／パブリックヘルス領域のクリニカルナーススペシャリスト・プログラムは全米第2位（同）にランキングされた。この大学の看護学部のみならず、コミュニティに貢献するような活動の中心的役割を担っているのがコミュニティヘルスナーシング（Community Health Nursing：CHN）である。CHNは大学院修士課程の1プログラムであり、ここに所属する教官と学生とが、教育・研究の一貫として1992年より大学周辺の住民に対してヘルスケアを提供している。

2. コミュニティの特徴

Baltimore はワシントン D.C. の北東にある港町であり、南北戦争の舞台ともなった観光都市でもある。CHN がヘルスケア活動の対象としているのは大学周辺の East Baltimore に住む人々である。East Baltimore は人口80,000人あまりの地域で、学歴が低く貧しい人々が多い（住民の40%は貧困層に属し、30%は無給または生活保護を受けている。52%が高校を卒業していない）。健康状況は劣悪で、新生児死亡率は17.6（1000対）であり、癌と心血管系疾患および呼吸器疾患の罹患率が州で最も高く、淋病と梅毒の罹患率は全米で最悪である。このような人々に門戸を開いている医療機関の数は多くはなく、夜間診療所も少ない。さらに貧困による連絡手段や移送手段の不足、米国のヘルスケアシステムの財源不足と複雑さにより、ヘルスケアにアクセスすることは容易ではない。一方、住民の側としても貧困による精神的抑圧からヘルスケアに親しく近づくことがなく、CHN の活動は地域住民にとって基本的なヘルスケアニーズを満たすための貴重な資源となると同時に、活動における住民の心情への配慮が欠かせないものとなっている。

3. CHN の活動

上記のような特徴をもつ住民の QOL を改善するため、CHN を中心とする Hopkins の看護学部が提供しているヘルスケアプログラムは40種類にのぼる。一例をあげると、住民健康診断、小児を対象とした予防接種、両

親を対象とした母乳栄養教室、疾病予防教室や慢性疾患患者を対象とした健康教室、小児を対象としたセルフ・エスティームクラス、夜間健康相談などがある。開催時間は年間で延べ12,000時間と膨大なもので、単純に計算して毎日必ず複数のプログラムが行われていることになる。これらの活動場所として4ヶ所程度のサイトを開いているようである。これらは全て無報酬のボランティアであり、必要物品購入等の費用は各種財団や一般篤志家からの寄付によっている。

CHN は2000年に州および国との協力事業として地域住民のための新しいコミュニティセンターを開設した。このセンターには簡易宿泊所も併設しており、ここで様々なヘルスケア活動を展開している。このセンターの活動方針は「コミュニティの一部になる」ことである。

4. Johns Hopkins University 看護学部の研究活動

最後に、Hopkins 看護学部における研究活動の一例を紹介する。まず、低所得層の黒人女性を対象としたホルモン治療剤の内服コンプライアンスとその要因を明らかにする調査であるが、主治医とのやりとりの不足などからコンプライアンスは非常に低く、これを高めるため、教会や美容院、コミュニティセンターなど公共の場での広告の必要性が指摘されている。母乳栄養支援の方略を探る研究では、少数民族に属する低所得層の母親の母乳栄養を促進するため、出産後6ヶ月間の介入を行っている。韓国系アメリカ人支援チームは全米ネットワークの中心となっており、これらの人々に多い高血圧の予防と管理のための健康相談などを実施している。その他、虐待の原因と影響および予防対策を探る研究は開始されたところであり、研究費を提供して学外からも研究参加者を募っている。

これらの研究課題と上記実践からは、Hopkins 看護学部が地域住民の健康問題に教育・研究・実践の全ての面から深く関心をもっていることがわかる。地域看護についての教育・研究と実践とを有機的に関連付けた大学活動の好例といえよう。

III. The University of Rochester, School of Nursing

合衆国では、近年死亡率が増加している唯一の年代が思春期であり、この年代の若者へのヘルスケアについて積極的な取り組みが行われている。そこで今回、地域看

護センター (CNC) を通して思春期の若者を対象とした活動を行っている The University of Rochester 看護学部と CNC の活動について紹介したい。

1. 大学の概要

The University of Rochester はニューヨーク州の北部にあり、地域の健康に貢献するための The University of Rochester Medical Center (以下 URMC とする) を有している。URMC は、The University of Rochester の医歯学部、看護学部、歯科センター、医学部教員のグループ、病院、子ども病院を含み、このうち医歯学部と看護学部は Strong Health System とよばれるシステムを構成して専門教育や研究を行っている。

The University of Rochester の看護学部は、今年創立75周年にあたる。学部と大学院合わせて366人の学生を有し、U.S. News と World Report の調査において看護学部として20位にランクされている。

2. The University of Rochester の CNC

The University of Rochester 看護学部は、ケアの接近性や質の向上、データベースの開発、教員の知識や技術の向上、学生への教育のために、CNC を設立した。CNC の活動区域は Rochester から半径50マイル以内であり、農村部、都市部、郊外を含んでいる。CNC の主な活動は、次のとおりである。1) ケースマネジメントプログラム、2) 地域を基盤とした看護活動、3) トラベルヘルスサービスとワクチンクリニック、4) 教育的ワークショップ (一般公開)、5) スタッフへの相談サービス、6) 学校でのヘルスサービス。

3. 思春期を対象としたヘルスサービス

思春期は子どもから大人への移行期であり、ヘルスケアサービスにおいて、特にクライアントのケアへの接近性を高めるために、発達の特徴をふまえた配慮が必要である。思春期の若者は危険行動に巻き込まれやすく、特にヘルスカウンセリングの重要性が高いが、若者自身は健康教育を拒否したり大事に至るまでケアやサポートを求めようとしない傾向もある。また、彼らは信頼できるケアや誠実な対応を求めている。したがって、CNC のヘルスケアの提供者にも、身体的、発達の、心理社会的、社会文化的、そしてスピリチュアルな面での十分な知識と、コミュニケーションやインタビューの技術が求められている。

CNC によるサービスの実際は、次のようである。

1) 学校保健のサービス

学校保健のサービスでは、その学区のニーズに合ったサービスプログラムが計画されており、健康教育などの予防的プログラムが中心である。

The Monroe County Health Department では、Rochester の若者とその子どもや母親、就業している若者を対象として、都市部特有の健康問題に対するサービスを行っている。ここでは、ナースプラクティショナーが健康評価や運動機能についての身体検査、STD の検査、精神衛生の評価、健康教育やカウンセリング、医師やその他の専門職との調整、他の看護スタッフへの指導等を行っている。また、郊外や農村部のある学区では、身体検査などに関わる専門家のスケジュール調整が困難であったため、CNC を通じてナースプラクティショナーのサービスを受けた。この方法は、コスト効果がよくスケジュール調整も容易で合法的であった。郊外のある大規模な学区では、早期思春期の子どもたちを対象とした、性教育に関するプログラムが開発された。

2) リスクの多い状況にある若者へのサービス

Hillside Children's Medical Center では、問題行動や情緒的問題のある子どもとその家族を支援する目的で、治療的な住環境を提供している。また、危機的状況にある子どもや家族のための緊急シェルターで、カウンセリングやアセスメントを行っている。Hillside Residential site では、家庭や養育者に問題がある10代の女子を対象にケアを行っている。このクライアントには性的虐待を受けた経験をもつものや精神的な問題を持つものが多く、危険行動にも巻き込まれやすい。このため、身体検査や STD 等婦人科的診断の治療、健康教育などが行われている。また、Appleton のグループホームには常時8名の女子がおり、6～8週間の滞在期間中に、性行動や妊娠、STD、AIDS の予防に関する健康教育を受けている。

3) 農村部のヘルスケアクリニックでのサービス

Canandaigua では、CNC メンバーである小児看護のナースプラクティショナーが、小児科医と共同で0～18歳の子どものプライマリーケアサービスを行っている。また、スクールナースにより相談サービスや学校での身体運動面の診察も行われている。Livingstone

County Health Department の Woman's Clinic では、母性看護のナースプラクティショナーが予防的ケアにあたっているが、ここではクライアントである女性のパートナーにあたる男性に対しても診察を行っている。

4) コミュニティエージェンシーとしての活動

ナースプラクティショナーは、教会やコミュニティセンター、シェルター等において、地域のグループとともに活動する中で看護援助を行っている。また、CNCメンバーは、Rochester の開催する思春期の若者を対象とした夏のスポーツキャンプで、事前の健康評価を担当している。さらに、少数民族の若者のスクリーニングのために、各地のレクリエーション施設や学校へ出向いて活動している。

IV. The University of Washington, School of Nursing

1. 大学の概要

The University of Washington は米国西海岸の最北部ワシントン州 Seattle に位置する1861年設立の州立大学である。35,000人の学生を擁しワシントン州では最大規模を誇っている。看護学部は、1984年以来米国内の看護学部ランキングで第一位にランクされている他、研究費の獲得でもトップレベルである。また115名もの常勤および非常勤の教員がおり、質の高い教育、臨床指導、学生へのメンターシップを提供することに専心している。看護学部では、「知識を生み出し、広め、コミュニティへサービスを提供する」という大学全体の使命を共有し、学術活動を基盤に、卒前・卒後教育を通じて知識を広め、コミュニティの健康を改善することに努めている。

看護学部には Biobehavioral Nursing and Health Systems (BNHS), Family and Child Nursing (FCN), Psychosocial & Community Health (PCH) の3つの領域がある。BNHS は、1) 生物学的および行動科学的視点を有した成人および老人の健康と疾病、2) ヘルスケアシステム、に関連した看護学、教育、実践および地域サービスの発展を目的としている。FCN は生活と健康の変化の中で個人、家族、地域のヘルスプロモーションについての知識を広めることを担当している。PCH は研究、実践、健康増進と疾病予防の専門ナ-

ス教育を担当している。この領域では社会的正義の達成とすべての人々へのヘルスケアへのアクセスのために、人種、階級、性、ライフスパンによる多様な健康経験に焦点を当てている。これらの各領域では様々なプログラムの提供および活発な研究活動を通じて地域への貢献がなされている。その一例としてプログラムの評価研究を通じて地域へ貢献していると考えられるものを紹介する。

2. 労働災害受傷者を対象としたケースマネジメントプログラムの評価研究

発展途上のプログラムの全体的評価を適切に行うことは、プログラムを改良して次の段階につなげていくために非常に重要である。ここで紹介するのは、ワシントン大学看護学部助教授で産業看護プログラムのディレクターでもある Mary K.Salazar 博士が中心となって行ったワシントン州労働産業局 (Department of Labor and Industries : 以下 DOLI と表記) ケースマネジメントプログラムの総合的かつ詳細に行われた評価研究である。その結果は米国の産業看護学雑誌である AAOHN Journal に1999年8月号、9月号に連続した6本の論文として掲載された。

米国において職業上の負傷および疾病に関するコストの増大は大きな負担となっており、効率的なヘルスケアサービスの提供とコスト抑制および生産性低下の防止を実現し得るケースマネジメントプログラムへの関心が高まっている。1993年、DOLI は労働により重度の負傷（たとえば麻痺を伴う脊髄損傷、四肢切断）あるいは医学的な合併症（たとえば回復を妨げる持続的な状態、慢性疼痛症候群）に分類される傷害を負った労働者に対し、保健および医療サービスを調整することを目的とした看護ケースマネジメントプログラムを提案した。プログラムの評価のため、アンケート調査およびインタビュー、フォーカスセッション、記録のレビュー等の方法が選択され、次の3つの調査が実施された。

- 1) 1995年1月1日～9月30日の間にケースマネジメントサービスを受けた受傷労働者を対象としたプログラムに関する認識および職場復帰経験についての調査 (Brines, 1999)。
- 2) クレームマネージャー (Claim Manager)、産業看護コンサルタント、看護ケースマネージャー、主治医のグループを対象としたサービス提供者側の認識

についての調査 (Pergola, 1999).

3) 1994年1月1日～9月30日までの間にケースマネジメントプログラムを開始したケースの記録の再分析 (Tsai, 1999).

一連の研究論文の最後の論文にて、著者はこの評価研究全体の強みについて質的、量的なデータを多面的な方法により収集した結果、信頼性が保証されたと述べ、限界についてはサンプルサイズの小ささと抽出方法の問題、および調査対象に受傷した労働者の雇用主が含まれていないことに言及している。その上で今後のワシントン州の労働者補償システムとケースマネジメントプログラムの改善に向け、(1)看護ケースマネージャーのスキルを評価するメカニズムの必要性、(2)看護ケースマネージャーの早期介入の促進および保証、(3)看護ケースマネージャーのトレーニングの実施 (特に負傷した労働者の特有の心理面への知識と理解)、(4)他職種に対し看護ケースマネージャーの役割への理解が促進されるようなオリエンテーションの実施について提言を行った。

おわりに

地域に貢献する大学とその活動について、各委員が情報収集を行った4大学看護学部を紹介した。わが国とは制度・社会事情も異なるため、それぞれの活動をそのまま導入することは不可能である。しかし、今回の情報収集およびそれをまとめる過程において、1看護学部が地域に貢献しようとする時には教育、研究、実践をいかに連携させるかという点が非常に重要であるということ、学ぶことができた。この観点から考えると、4大学の活動は、どのような連携を取ることができるのかという点で参考になると思われた。しかし、具体的な大学教員の活動内容や役割については、十分な情報が得られていない。これは情報収集をホームページ、ネットワーク検索、および文献検索という方法のみに寄ったため生じた限界と考える。現段階で収集できた情報は、大学側および論文等の筆者が我々とは別の意図で提供したいと思っている情報であり、看護学部がいかに地域に貢献できるかを考えていく上では必要十分な情報とはなり得ないものであった。

今後の課題としては、1) 大学の所在するコミュニティの詳細、2) 大学 (看護学部) 全体としての地域貢献に

ついでの方、3) 地域貢献の対象、方法および内容、その中でも特に教員の活動内容を基本的な情報として把握することが必要である。そのためには、実際に活動が行われている状況を実地で見ることやパーソナル・コミュニケーションによる情報の集積が必要であると考え。

文献

- I. The University of Wisconsin-Milwaukee, School of Nursing
 1. Lundeen, S. P.: Community nursing centers: Issues for managed care, *Nursing Management*, 28(3), 35-37, 1997.
 2. Lundeen, S. P.: An alternative paradigm for promoting health in communities: The Lundeen community nursing center model, *Family & Community Health*, 21(4), 15-28, 1999.
 3. Murphy, B.: *Nursing Centers: The time is now*, National League for Nursing Press, 1995.
 4. Zachariah, R., & Lundeen, S. P.: Research and practice in an academic community nursing center, *Image: Journal of Nursing Scholarship*, 29(3), 255-259, 1997.
 5. The University of Wisconsin-Milwaukee, School of Nursing (<http://www.uwm.edu/Dept/Nursing/>)
- II. Johns Hopkins University, School of Nursing
 1. Johns Hopkins University (<http://www.jhu.edu/>)
 2. Johns Hopkins University, School of Nursing (<http://www.son.jhu.edu/>)
- III. The University of Rochester, School of Nursing
 1. Donna Hill, et al.: *Adolescent care: Community-based faculty practice in a nursing center*. Barbara Murphy, *Nursing Centers: The time is now*. National League for Nursing Press, New York, 1995.
 2. The University of Rochester (<http://www.rochester.edu/>)
- IV. The University of Washington, School of Nursing
 1. Salazar, M.K., Graham, K.Y., & Lantz, B.K.: Evaluating case management services for injured workers: Use of a quality assessment model, *AAOHN Journal*, 47(8); 348-354, 1999
 2. Brines, J., Salazar, M.K., Graham, K.Y. Pergola, T. & Connon, C.: Injured workers' perceptions of case management services: A descriptive study, *AAOHN Journal*, 47(8); 355-364, 1999
 3. Brines, J., Salazar, M.K., Graham, K.Y. & Pergola, T.: Return to work experience of injured workers in a case management program, *AAOHN Journal*, 47(8); 365-372, 1999
 4. Pergola, T., Salazar, M.K., Graham, K.Y. & Brines, J.:

Case management services for injured workers : providers' perspectives, AAOHN Journal, 47 (9) ; 397-404, 1999

5. Tsai, J., Salazar, M.K., Graham, K.Y. & Brines, J.: Case management services for injured workers: A descriptive study using a record review, AAOHN Journal, 47 (9):405-415, 1999
6. Salazar, M.K., & Graham, K.Y.: Evaluation of case management program: Summary and integration of findings, AAOHN Journal, 47 (9):416-423, 1999
7. The University of Washington, School of Nursing (<http://www.son.washington.edu/>)

(受稿日 平成13年2月23日)